

## 1 発達障害等相談センター運営事業

### <内容>

発達障害児・者等に対する専門職（社会福祉士、臨床心理士、精神保健福祉士、保健師等）による身近な相談窓口を設置（宇部フロンティア大学に業務委託）。

- ・発達、生活相談
- ・ご家族のサポート
- ・支援者育成
- ・関係機関との連携

### <実績（平成 27 年度）>

#### ○発達、生活相談

- ・実績：936 件

#### ○保護者サポート

- ・保護者グループトーク 5 回 参加者 14 人
- ・ミニ講座&トークセッションの開催 3 回 参加者 25 人

#### ○支援者育成

- ・開所記念講演会 2 回 357 人参加
- ・支援者からの相談 22 件
- ・講師として派遣 2 件 福祉・教育職員研修会（うべつくし園） 参加者 80 人  
小野小・中学校合同特別支援教育研修会 参加者 18 人

#### ○関係機関との連携

- ・関係機関との連携した支援の実施
- ・関係機関の会議への参加

翼の会（当事者の会）翼の会、宇部市発達障害児を支えるネットワーク協議会、子ども支援ネットワーク協議会実務者会議、宇部市障害者就労ネットワーク会議、障がい等地域支援ブロック会議、障害者ケア協議会等

### <評価>

相談は小児から成人まで年齢層が広く、内容は障害について、進学、就労、勤務先のことなど切れ目なくライフステージすべてにわたっている。当事者・家族のみならず、教員、勤務先の職員など支援者の困り感に寄り添い、臨床心理士等の専門的視点で適切に状態を評価し、個別に適切な関わり方、支援方法の助言ができており、好評を得ている。関係機関からの講師依頼への対応や講演会の実施、各会議への参加により支援者育成や啓発普及、ネットワークの構築にも努めている。

## 2 ひきこもりの相談支援充実事業

### <内容>

専門職（精神科認定看護師、臨床心理士、精神保健福祉士、保健師等）によるひきこもりの相談支援、家族心理教育（家族教室）、訪問支援、居場所の確保、精神科医等のスーパーバイザーの確保。（ふらっとコミュニティに業務委託）

### <実績（平成 27 年度）>

- ・相談支援（来所相談）：82人
- ・家族心理教育（家族教室）：延べ206人が参加（開催回数：33回）
- ・訪問支援：4人（延べ訪問件数 14件）
- ・居場所設置利用：3人（延べ利用回数 15件）
- ・精神科医師によるスーパーバイズ：2回

### <評価>

従来 of 相談窓口にはなかった、精神科認定看護師等の専門家による家族心理教育が行われ、家族心理教育を終了した家族の継続サポートもおこなえている。「ひきこもり」という状態像からの、わかりやすい相談窓口となっている。

これまで、知識を学ぶ機会はさまざまあり、過去多数の相談機関に行ったが、実際我が子にどのように接したらいいのか、自分のかかわり方が良いのか悪いのかを、具体的に継続的に教えてくれる場所は、この家族心理教育しかなかったとの、参加者からの意見が多数聞かれ、その後のひきこもり当事者のアウトリーチにつながり、当事者の望ましい行動変容につながっている。

## 3 障害者安心緊急支援事業

### <内容>

在宅の障害者（児）が、日常介護を行う者の疾病その他の理由で介護を受けることができなくなるなど緊急に支援が必要となった場合において、緊急ショートまたは緊急ヘルパーが利用できる体制を整備

### <実績（平成 28 年 3 月末現在）>

○緊急ショート（扶老会に業務委託）

- ・相談実績：3件

利用者情報	相談内容	結果
20代男性 精神障害	アパートでぼや（放火）を出し、行き場がない	精神科病院への入院が決まった為、見送り
50代男性 精神障害	同居の母と喧嘩し、母が出て行ったため、単身生活が困難	母が帰宅した為、見送り
30代女性 知的障害	同居している内縁の男性からの暴力があり、家を飛び出した為、住む所がない	その後、利用

- ・利用実績：1件

紹介機関	宇部市障害福祉課
利用者情報	30代女性 知的障害
経緯	同居している内縁の男性から暴力があり、家を飛び出し、知人宅にいたが、長く居れず、その後の住居がない為、利用に同意
利用日数	7日
利用後	しばらくの間知人宅で過ごされるとのこと

- ・その他
  - ・常時受付可能な体制の整備
  - ・受け入れに係る様式の作成
  - ・医療機関、相談支援事業所等、関係機関への周知

○緊急ヘルパー（ケアセンター共生他3事業所に委託）

- ・実績なし

・その他

- ・夜間ヘルパー支援が可能となるよう、支援体制の確保

### <評価>

○緊急ショート

利用者が3名しかいなかった原因として、以下のことが考えられる。

- 1 制度の認知度が低いままで、周知不足だった
- 2 送迎がないので、施設まで自分で来なければならないため、利用しにくい

○緊急ヘルパー

利用者がいなかった原因として、以下のことが考えられる。

- 1 制度の認知度が低いままで、周知不足だった。
- 2 既存の障害福祉サービスで対応する場合もあり、利用に結びついていない。

## 4 障害者の理解促進支援事業

4-1 障害者への理解を促進するため、小・中学校や地域での講演会等を拡大して実施。

### <内容>

- ・市内の小、中学校で、障害者理解に関する講演会やふれあい活動を実施
- ・講演会や授業の事前、事後指導の実施
- ・地域で、障害者の理解を促進する講演会やふれあい活動を実施

## <実績>

- ・小学校：10件（平成28年3月31日現在）  
※秋以降、各地域において、障害者理解講演会を開催。  
自治会等で障害者理解の勉強会を実施（障害者理解DVD貸出件数67件）

## 4-2 第16回 障害支援者交流の集い

「差別って何？ ～障害者差別解消法についてみんなで考えよう！～」 開催

## <開催日時>

- ・平成28年3月24日（木）13時～16時

## <場所>

- ・ときわ湖水ホール 大展示ホール

## <内容>

- ・講演

障害者差別解消法について ～障害者権利条約を地域のすみずみに～

講師：NPO法人 日本障害者協会 代表 藤井 克徳 氏

- ・シンポジウム

～差別ってなに？わたしたちに出来ることを考える～

進行：宇部市地域自立支援協議会 水田 和江 氏

助言者 藤井 克徳 氏

シンポジスト：宇部市身体障害者団体連合会 会長 溝田 成哲 氏

宇部市民生児童委員協議会 佐藤 坤子 氏

リベルタス興産 社長 有田 伸二郎 氏

JALプライオリティ・ゲストセンター マネージャー 木ノ下 宏 氏

山口宇部空港所 迫田 真須美 氏

宇部市長 久保田 后子

## <参加者数>

- ・237人

## <事業所数>

- ・110事業所